

新任学芸員紹介

山岡 勇太



自己紹介

令和2年4月より、自然の博物館に配属となりました、学芸員の山岡勇太と申します。地質学（無脊椎動物化石）が専門で、地層や軟体動物の化石を研究しています。

学生時代の研究テーマ

私は幼い頃から生き物が大好きで、生物がどのように進化するのか、その仕組みについて興味を抱いてきました。その謎の一端を明らかにするために、「貝化石」というツールを用いて、進化の仕組みを探る研究を行っています。

二枚貝や巻貝は、石灰質の硬い殻をもつため地層中に保存されやすく、見つかる数も膨大であるため、化石から非常に多くの情報を抽出することができます。こうした利点を活かして、過去に絶滅した化石種と、子孫に当たる現生種を対象に、「形」や「生態」などを比較・検討することで、生物が「いつ」、「どこで」、「どのように」進化してきたのか、その仕組みを明らかにしていきたいと考えています。

学生時代は、食用貝としても有名なトリガイやサルボウガイなどの身近な貝が、地球の歴史の中でどのように出現し、進化してきた

のかを研究していました。同時に、高知県の室戸半島でフィールドワークを行い、約300万年前の古土佐湾にどのような生き物が暮らしていたのかについても調査を行いました。

これまでの仕事

大学院を卒業後は、富山県東部にある立山黒部ジオパークで、ジオパーク専門員を務めました。ジオパークとは「大地（Geo）の公園（Park）」という意味で、学術的に価値のある地形・地質を守りながら教育や観光などに活用することで、持続可能な地域を目指すプログラムです。ここ、自然の博物館のある秩父地域もまた、ジオパーク秩父に認定されています。

立山黒部ジオパークは、標高3,000mの飛騨山脈から水深1,000mの富山湾まで4,000mの高低差を体感できる地域です。このダイナミックな地形地質を題材として、地域の学校で出前授業を行ったり、地質や景観を楽しむを新たなツアー商品を開発したりと、立山黒部ジオパークの普及啓発に取り組みました。

おわりに

埼玉県ではこれまで、古生代から新生代までの多種多様な化石が発見されています。これらの化石は、当時の埼玉県の環境を知るためのヒントを私たちに教えてくれます。こうした情報を化石から読み取り、翻訳して分かりやすく伝えることが、学芸員である私の役割であると感じています。今後は、化石からみた埼玉の魅力を発掘し、来館者の方々や、県内外に積極的に発信していきたいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。

（やまおか ゆうた・学芸員）